

とびばこあそび～スーパーにんじゃへの道！～

本単元で育成する資質・能力

課題発見力・思考力・判断力・表現力・主体性・自己肯定感

1 単元について

(1) 単元観

本単元の学習内容は、学習指導要領には以下のように位置づけられている。

第1学年及び第2学年 B 器械・器具を使っての運動遊び

(1) 次の運動を楽しく行い、その動きができるようにする。

エ 跳び箱を使った運動遊びでは、跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りや跳び乗りをすること。

本単元では、跳び箱を使って跳び乗りや跳び下りをして遊んだり、馬跳びやタイヤ跳びをしたりして遊ぶことができるようにすることをねらいとしている。

加えて、準備や片付けの際は友達と協力して役割分担をしたり、場の安全に気を配ろうとしたりする態度を養うことができる。

(2) 児童観

本学級の児童は、明るく活発な児童が多く、休憩時間になると外に出て元気に外遊びを楽しむ児童が多い。「体を動かして運動することが好き」というアンケートに対して、24人中20人が肯定的な回答をしており、体育の学習においても積極的に学習を進めることができている。また、新しい運動遊びに対して臆することなく進んで活動することができる。しかし、4人の児童がアンケートに対して消極的な回答をしており、少数ではあるが体育や運動に苦手意識がある児童もいる。

跳び箱遊びについては、幼稚園や保育園で跳び箱やタイヤ跳びを使った経験があり、「跳び箱＝開脚跳び」というイメージをもつ児童が多い。

(3) 指導観

指導にあたっては、児童のもつこれまでの跳び箱に対するイメージにとらわれることなく新しい遊び方を知り、跳び箱の楽しさを味わうことができる学習となるような単元構成を計画していく。そのために、単元を通して「忍者の動き」をイメージさせることで、「静かに着地すること」や「両足を揃えて止まること」など動きのイメージを具体的にもたせたい。また、中学年・高学年の器械運動に繋がる動きを安全に行えるように指導を行う。

さらに、上手くできる友達にアドバイスをもらったり、単元の最後に自分のできるようになった技を友達に見てもらったりすることで相互評価ができる場面を設定する。

<指導にあたって> 「かかわり合い」をいかし、「わかる」「できる」授業づくりをするために

「わかる」について

「わかる」とは、以下の2点であると考える。

- ① 跳び箱を使った遊び方を知り、楽しく遊ぶ方法がわかる。
 - ・安全で楽しく遊ぶために、何が安全で何が危険なのかを考えさせる。
 - ・色々な場を経験することで、自分なりのコツを考えさせる。
- ② 友達の動きを見て、よい動きがどのような動きかがわかる。
 - ・友達の動きを見て、上手くできている理由を自分なりにイメージさせる。
 - ・オノマトペを使用し、イメージしながら新しい動きに挑戦する。

「できる」について

「できる」とは、以下の2点であると考える。

- ① 両足で踏み切る→跳び箱の上にまたぎ乗る→両手支持でまたぎ下りる
 - ② 両足で踏み切る→跳び箱の上に跳び乗る→両足着地で跳び下りる
- そのために、準備運動のサーキット運動や予備運動の中で両手支持や両足着地を取り入れ、主運動につなげる。
- また、単元計画の中で確実に身に付けさせたい技能を分割して取り入れることで、一つひとつの動きを丁寧に行う。
- グループ内で練習を行うだけでなく、他のグループで技を見せ合う場を設定し、児童同士で声かけが行える環境をつくる。

「かかわり合い」について

仲間と豊かにかかわり合うために、以下の2点を重点的に指導する。

- ① グループ内で友達の動きを真似して練習をしたり、全体で動きを共有したりする時間を設けることで、グループで新しい技をつくったり、難しい動きに挑戦したりすることができ、意欲的に技能を高めることができる。
- ② 他の場で練習をしていたグループと技を紹介し合う活動を通して、新しい動きを知ったり、技のコツを伝え合ったりすることで、友達とのかかわり合いを楽しみながら「わかる」「できる」ことを実感させる。

2 単元目標

- 跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りや跳び乗りをすることができるようにする。(技能)
- 跳び箱遊びに進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。(関心・意欲・態度)
- 器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫できるようにする。(思考・判断)

3 単元の評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 跳び箱遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守って友達と仲よく運動をしようとしている。 ・ 器械・器具の使い方や置き方などの場の安全に気をつけ、準備や片付けを友達と協力して行おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 跳び箱遊びの行い方を知り、楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選んでいる。 ・ 跳び箱遊びの動き方を知り、友達のよい動きを見つけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 跳び箱を使って跳び乗りや跳び下りをして遊んだり、馬跳びやタイヤ跳びをして遊んだりしている。
学習活動に即した評価規準	<ol style="list-style-type: none"> ① 跳び箱遊びに進んで取り組もうとしている。 ② 跳び箱遊びの順番やきまりを守り、友達と仲よく運動をしようとしている。 ③ 器械・器具の準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。 ④ 器械・器具の使い方や置き方などの場の安全に気をつけようとしている。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 跳び箱を使った運動遊びの行い方を知っている。 ② 跳び箱を使って楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選んでいる。 ③ 自分の跳びやすい場を選んでいる。 ④ 跳び箱を使った運動遊びの中で、友達のよい動きを見つけている。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 片足や両足で強く踏み切り、跳び箱に乗ることができる。 ② 跳び箱から両足を揃えて静かに着地することができる。 ③ 手をついての跳び乗り、跳び下りをするすることができる。 ④ 手をついてのまたぎ乗り、またぎ下りをするすることができる。

4 本単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

スキル	課題発見力	跳び箱遊びについて、楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選ぶことができる。
	思考力 判断力 表現力	跳び箱遊びについて、技を見る視点を意識しながら、友達のよい動きを見つけることができる。
意欲・態度	主体性	器械・器具の準備や片付けを友達と協力しながら積極的に行ったり、跳び箱遊びに進んで取り組んだりすることができる。
価値観・倫理観	自己肯定感	ペアグループや2人組で練習をすることで、お互いによかったところやできるようになったところに気付くことができる。

5 単元計画（全6時間）

本時4 / 6

学習の段階	着地を意識する	目的の場所へ着地することを意識する	片足着地，両足着地のどちらが安全かを考える
時数	1	2	3
一時間の学習の流れ	<p>○あいさつ</p> <p>○サーキット，準備運動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ④にんじやのようにかっこよくちやくちしよう。 </div> <p>○片足着地や両足着地で跳び箱を跳び越える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・跳び越し，踏み越し ・忍者のようにかっこいい踏み越し跳びに挑戦 ・遠くへ ・手をたたいて ・回転して <p>○動きの確認をする。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> かっこいい着地 <ul style="list-style-type: none"> ・音を立てずに止まる ・両足を揃えて止まる </div> <ul style="list-style-type: none"> ・とんとと止まる ・揃えて止まる <p>○跳び箱の場で練習する。</p> <p>○まとめをする。</p>	<p>○あいさつ</p> <p>○サーキット，準備運動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ④ねらったところへ「すたっ」とちやくちしよう。 </div> <p>○跳び箱を跳び越え，ケンステップの中へ着地する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・跳び越し ・踏み越し ・跳び乗り，跳び下り ・横跳び越し <p>○動きの確認をする。</p> <p>ねらったところへ止まる <ul style="list-style-type: none"> ・両足踏み切りで跳び箱の上に跳び乗り，両足で着地する ・片足踏み切りで跳び箱の上に跳び乗り，両足で着地する。 ・跳び箱を跨ぎ越し，両足で着地する。 </p> <p>○ロイター板の場で練習する。</p> <p>○まとめをする。</p>	<p>○あいさつ</p> <p>○サーキット，準備運動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ④しょうかいされた「にんぼう」にちょうせんしよう。 </div> <p>○同じ技で片足着地と両足着地で跳び箱を跳び越える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・跳び越し ・踏み越し ・またぎ越し ・横跳び越し <p>○動きの確認をする。</p> <p>安全な着地 <ul style="list-style-type: none"> ・片足着地と両足着地を体験することで，両足着地のよさを感じる。 ・両足で着地した方が安全 ・両足で着地した方がびたっと止まれる </p> <p>○トランポリンの場で練習する。</p> <p>○まとめをする。</p>
	<p>○振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを使つての振り返り 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><振り返りの視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるようになったこと ・つぎにしたいこと ・よかったともだちやおしえてもらったともだち </div>	
関心意欲態度	③④ 観察	①② 観察・カード	
思考判断			① 観察・カード
技能	② 観察	① 観察	① 観察

学習の段階	両手着手, 両手支持, 両足着地を意識する	グループで場を選択し, 紹介したい技を考える	得意な技を友達に紹介したり, 友達の技に挑戦したりする
時数	4 (本時)	5	6
一時間の学習の流れ	<p>○あいさつ</p> <p>○サーキット, 準備運動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>④あたらしい「しゅぎょう」にちょうせんしよう。</p> </div> <p>○「両手支持を行うこと」を新たに増やし, 両足着地で跳び箱を跳び越える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着手するときの約束 ・支持でのまたぎ乗り, またぎ下りを色々な場で体験する。 <p>○動きの確認をする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>目標の動き.....</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両手支持 ・両足着地 ・両足踏み切り </div> <ul style="list-style-type: none"> ・手を遠くに着く方が跳びやすい <p>○自分のやりやすい場を選んで練習する。</p>	<p>○あいさつ</p> <p>○サーキット, 準備運動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>④とくいわざをかんがえ, れんしゅしよう。</p> </div> <p>○既習の動きを使って, グループで技を考え, 練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支持での跳び乗り, 跳び下り ・支持でのまたぎ乗り, またぎ下り ・開脚跳び ・横跳び越し <p>○動きの確認をする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>目標の動き.....</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両手支持 ・両足着地 ・両足踏み切り </div> <p>○ペアグループで紹介し合い, 練習をする。</p>	<p>○あいさつ</p> <p>○サーキット, 準備運動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>④1ばんとくいなわざをともだちにしょうかいし, にんじゅつしょをつくらう。</p> </div> <p>○それぞれの場で練習する。</p> <p>○自分の決めた技を練習する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>目標の動き.....</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両手支持で踏み切る ・両足着地で止まる </div> <p>○友達に技を紹介する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>技を見る視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両手支持で踏み切る ・両足着地で止まる ・音を立てずに止まる ・両足を揃えて止まる </div> <p>○まとめをする。</p>
	<p>○振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを使っでの振り返り 	<p><振り返りの視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるようになったこと ・つぎにしたいこと ・よかったともだちやおしえてもらったともだち 	
関心意欲態度	② 観察		
思考判断	③ 観察・カード	② 観察・カード	④ 観察・カード
技能		③ 観察	④ 観察

6 パフォーマンス課題と評価の指標

パフォーマンス課題	評価の指標		期待する児童の動き
<p>① 数歩の助走から両足で踏み切り、跳び箱に両手をついてまたぎ乗ったり、またいだ姿勢で腕を支点に体重を移動させてまたぎ下りたりする。</p>	A	<p>またぎ乗りやまたぎ下りのコツを自分なりに表現することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「両手を遠くに着くといいよ。」 ・「バンっと音がするくらい両足に力を入れたらいいよ。」 ・「最後は両手でぐっと跳び箱を押すと上手く跳べるよ。」 ・力強い両足踏み切りで、跳び箱の遠くへ両手着手をする。
	B	<p>またぎ乗りやまたぎ下りができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・両足で踏み切り、跳び箱にまたぎ乗る。 ・腕支持で体重移動をし、跳び箱をまたぎ下りる。
	C	<p>またぎ乗り、またぎ下りのどちらか一方ができていない。両方ができていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・またぎ乗り、またぎ下りができない。
<p>② 数歩の助走から両足で踏み切り、跳び箱に両手をついて両足で跳び乗ったり、ジャンプして跳び下りたりする。</p>	A	<p>跳び乗りや跳び下りのコツを自分なりに表現することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「着いた手の近くに足を着くといいよ。」 ・「着いた手に力を入れて、足をしっかり上げて跳び箱の上に乗るよ。」 ・力強く両足で踏み切り、跳び箱に着手をして両足で跳び乗る。
	B	<p>跳び乗りや跳び下りができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・両足で踏み切り、跳び箱に両手を着いて両足で跳び乗る。 ・跳び箱に跳び乗った後、ジャンプして跳び下りる。
	C	<p>跳び乗り、跳び下りのどちらか一方ができていない。両方ができていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・跳び乗り、跳び下りができない。

7 本時の展開

(1) 本時の目標

飛び箱遊びで安全な両手着手や両手支持の行い方を知り、自分の跳びやすい場を選ぶことができる。(思考)

飛び箱遊びの順番やきまりを守り、友達と仲よく運動をしようとしている。

(関心・意欲・態度)

(2) 学習の展開

展開	学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
導入	1 準備運動をする。 ・サーキットトレーニング	○ 1つずつ丁寧な動きを心掛けるように声掛けをする。 ○ 腕で支持する動きを取り入れ、本時の学習につなげる。	
展開	2 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">㊦あたらしい「しゅぎょう」にちょうせんしよう。</div>		
	C どんな修行なのかな。 T 今日の約束は、「かならずりょう手をつくべし！」 T 安全な手の着き方を守って練習しましょう。	○ 前時までの動きとどこが違うのかを比較させ、どの動きが使えるのかを考えさせる。 ○ 学習の前に着手のきまりを確認する。 <きまり> ① 指を広げ、両手をパーにして飛び箱に手を着く。 ② 手のひら全部で飛び箱に触るようにする。	
	3 両手着手、両足着地の練習を行う。 <場の設定> ①縦向き3段の飛び箱 ②縦向き1段と3段の飛び箱 ③2つ連結させた縦向き3段の飛び箱 <考えられる児童の動き>	○ 飛び箱の上にビニールテープで色分けをしておき、着手の目安にする。 ○ 全ての場を体験させ、両手着手の感覚を養う。 ○ 着手の位置を確認する児童は飛び箱の横に立たせ、着手の場所を確認させる。	

	<p>①支持でまたぎ乗り，またぎ下り</p> <p>②開脚跳び</p> <p>4 ペアグループで確認しながら，両手着手の数を減らせるように練習をする。</p> <p>T 跳び箱に手を着く回数をなるべく減らせるように声を掛け合いましょう。</p> <p>C しっかり指を広げないと危ないよ。</p> <p>C 青（一番遠いテープ）に手を着くようにしたら，もっと跳べるよ。</p> <p>5 動きの確認をする。</p> <p>T どうすれば，手を着く回数を減らして跳び箱を跳べるのでしょうか。</p> <p>C 青に手を着くようにしたら，遠くに跳べました。</p> <p>C 両足にぐっと力を入れて跳ぶと，遠くに跳べます。</p> <p>6 両手着手と両手支持が一番やりやすい場所を自分で選び，練習する。</p> <p>T 一番上手くできた場所で練習をしましょう。</p>	<p>◆ 着手後，跳び箱にまたぎ乗ることが難しい場合は補助をする。</p> <p>○ 3つの場においてペアグループ全員で何回着手をしたのかを数え，全体で交流をする。</p> <p>○ 両足着地は既習事項であるため，必ず行うことを伝える。</p> <p>○ 「助走から力強い両足踏み切りをしている児童」「踏み切った後すぐ両手を跳び箱に着いて跳び乗っている児童」「開脚跳びができている児童」をモデルとして，全体に紹介する。</p> <p>○ グループ単位ではなく，自分が練習したい場所を選び，両手着手や両手支持を行えるようにする。</p>	<p>関 跳び箱遊びの順番やきまりを守り，友達と仲よく運動をしようとしている。 (関心・意欲・態度)</p> <p>思 跳び箱遊びで両手着手，両足支持の行い方を知り，自分のやりやすい場を選んで練習をしている。 (行動，ワークシート)</p>
--	--	---	--

	7 本時のまとめと振り返りをする。	○ 振り返りの視点を与え、振り返りを書かせる。 <振り返りの視点> ①できるようになったわざ ②つぎにしたいこと ③よいうごきをしているともだち ④おしえてくれたともだち	
--	-------------------	--	--